

漁業士会による漁業・水産物PRイベント ～オオスミフィッシャーメンズフェス2022～

大隅地域振興局 林務水産課

【背景・目的】

大隅半島におけるフィッシャーメン（漁業者・水産関係者）自ら漁業と水産物の魅力を発信するイベントを開催することで、多くの地域で深刻になりつつある担い手問題や魚離れを打開するきっかけに繋げることを目的とした。

【普及の内容・特徴】

1 開催概要

「食べる・学ぶが楽しい、漁師に会いに行く参加型フェス」をコンセプトとして、大隅の漁業と魚の魅力について、味わいながら学ぶことができるお祭り「オオスミフィッシャーメンズフェス2022」を令和4年11月5日（土）に東串良漁業協同組合の水揚げ場（波見港）にて開催した。

2 大隅地域振興局の役割

主催団体である大隅地区漁業士会の事務局として、企画立案から予算確保、漁業士メンバーや出店する飲食店、監修会社、ステージイベント関係者への調整を行った。

また、大隅半島全域の市町や漁協も巻き込むため、トークイベントをおおすみ水産振興協議会の研修会と位置づけることで各市町・漁協職員の参加も実現した。

3 活用した補助事業

かごんま漁師育成推進事業（新規漁業就業者確保事業）

4 飲食ブースと体験コーナー

大隅で水揚げされたカマスやキビナゴ等の浜焼き、カンパチを使ったフィッシュカレー、サメ唐揚げ、東串良が名産の生しらす丼、未利用魚や低利用魚を使用したさつま揚げなど、様々な魚料理を販売した。また、漁師直伝のロープワーク講座や未利用魚の展示コーナー、海洋プラスチックごみを使ったアクセサリー作り体験を実施した。

5 イベントの特徴

コロナ禍でも、来場者に魚を味わってもらいながら漁業者とコミュニケーションをとる場面を作りたいとアイデアを絞り、漁業者らによる“カンパチの解体ショー”と“トークセッション”を実施した。

今回のイベントは、フィッシャーメンが主役となっていることが特徴的である。芸能人も有名ミュージシャンもあえて呼ばずに、大隅半島を中心とした県内各地のフィッシャーメンだけでデザインされたイベントを実施した。

【成果・活用】

イベント当日は晴天にも恵まれ、予想を上回る約400名の来場者で賑わったことから、漁港という場所で漁師に会って魚を味わえる機会には、一般消費者からのニーズがあるということが分かった。

また、今回のフェスがきっかけとなり、漁業者や水産加工業者の新たな連携が生まれ、出店した飲食店や鮮魚店と漁業者のコラボによる食育イベントや販路が実現したり、中学校から漁業者へ講演依頼があったりと、少しずつ新たな波及効果も出てきている。



【図1 オオスミフィッシャーマンズフェス2022広告チラシ】



【図2 運営スタッフ集合写真】



【図3 カンパチの解体ショー】



【図4 浜焼きの様子】



【図5 漁師によるトークセッションの様子】